

## ◆特別寄稿◆ 日本赤十字学園 大学図書館紹介 (2)

## 日本赤十字九州国際看護大学図書館

伊東 泰子

**抄録：**日本赤十字九州国際看護大学図書館は、開設から11年目を迎え、蔵書数は収容可能冊数の約6割に達した。「赤十字」と「国際」を標榜する大学の図書館として、「災害看護・人道科学図書コーナー」などの特別コレクションも構築している。また、「本を読んで話す会」や「おすすめ図書」のリスト配布や図書館ブログによる広報活動など、学生の知的興味を喚起し、読書の習慣を涵養するための方策も試みている。看護学の専門知識のみならず、リベラルアーツを基礎とした豊かな教養を身につけた看護職の養成を支える施設として、蔵書・サービスともに一層の充実を図ることを目指している。

**Key Words：**日本赤十字九州国際看護大学図書館、災害看護・人道科学、本を読んで話す会、オーダーメイドガイダンス、ブログ

## I. はじめに

日本赤十字九州国際看護大学（以下、本学という）は、学校法人日本赤十字学園の4番目の4年制看護大学として、2001（平成13）年4月に福岡県宗像市に開学した。昨年（2010）年に開学10周年を迎え、2011年の本年、ようやく11年目に歩を進めたところである。まだ歴史の浅い本学の図書館であるが、これまでの経緯と現状について紹介する。

## II. 日本赤十字九州国際看護大学の沿革

宗像市は、北九州市と福岡市のほぼ中間に位置し、わが国の国民健康保険制度の原型といわれる「定礼（じょうれい）」制度発祥の地である<sup>1)</sup>。JR鹿児島本線の赤間駅からバ

スで15分、本学は、歴史的遺産と豊かな自然に恵まれた宗像市の「研究学園都市リサーチパーク」地区内にある（図1）。2001年に



図1 日本赤十字九州国際看護大学

開学して以来、2007年4月に大学院看護学研究科（修士課程）を開設し、2010年4月には同大学院に助産コースを新設するに至っている。

本学の教育理念は、赤十字の基本原則であ

ITO Yasuko

日本赤十字九州国際看護大学図書館

y-itou@jrckicn.ac.jp

る人道 (humanity) に基づき、個人の尊厳を尊重する豊かな人間性を培い、広く深い専門知識と学問を修得し、世界の如何なる場、状況、時にあっても、主体的かつ創造的に科学的看護を実践できるための「science と arts」を育むことであり、本学の目的は、九州地域を中心とする赤十字施設をはじめ国内外の幅広いフィールド、地域で、本学の理念を具現化し、人々の健康と福祉の向上に貢献する人材を育成することにある<sup>2)</sup>。

このような教育理念と目的を持つ本学の教育と研究機能の基盤となるため、また、「赤十字」と「国際」を標榜する大学の図書館として、看護に偏らない広範な蔵書構成と情報提供を目指している。

### Ⅲ. 日本赤十字九州国際看護大学図書館の現況

#### 1. 施設と運営

##### (1) 施設の規模

図書館は、本学正面に位置するゲート棟の北側地下1階から2階にあり、その立地から、学内者のみならず地域住民も利用しやすい開放的な施設となっている。総面積は905.8m<sup>2</sup>、収容可能冊数は6万2千冊である(図2)。

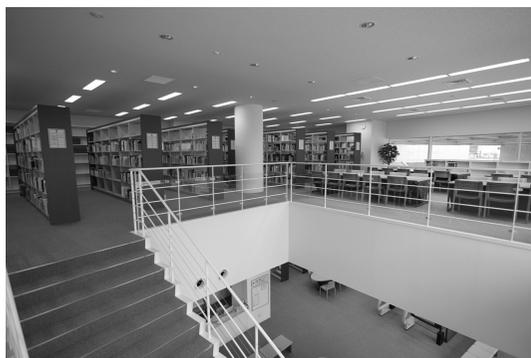


図2 日本赤十字九州国際看護大学図書館

図書館の構成は、1階部分が受付カウン

ターと事務スペース、参考図書、逐次刊行物、貴重図書、AV・PCコーナーであり、2階部分は開架と閲覧スペースである。地下1階部分は、約3万冊が収容可能な集密書架を備えた閉架式の書庫となっている。入口には、資料の紛失予防のため、ブック・ディテクション・システムを設置している。

閲覧室の座席数は109席である。このうち、利用者用端末を備えた座席は、AV・PCコーナーの30席を含めた41席である。これらの端末は、学内LAN用情報コンセントに接続しており、インターネットやレポート等の文書作成、蔵書検索が可能である。なお、利用者用端末のうち、1台はOPAC検索の専用端末であり、2階の閲覧スペースに設置している。

視聴覚機器は、DVD/CDプレーヤー30台、VHSプレーヤー6台である。その他の機器・備品として、プリンタ2台と複写機1台を備えている。

図書館の業務システムは、2006年9月以降、リコーのLIMEDIOを導入している。

##### (2) 蔵書数

所蔵資料の総数は、図書36,272冊、視聴覚資料1,137点、購読雑誌数(冊子体)115誌、新聞6紙である(2011年4月1日時点)。雑誌は、この他に電子ジャーナルで約820タイトルが閲覧可能となっている。データベースの種類とアクセス数は表1のとおりである。

2010年度の図書館資料費は、図書費(視聴覚資料、製本を含む)3,684,514円、雑誌費3,769,271円、データベース2,791,221円、計10,245,006円であった。寄贈資料を含んだ年間の資料受入数を表2に示す。

資料の分類には日本十進分類法(NDC)

表1 データベース名と同時アクセス数

データベース名	アクセス数
医学中央雑誌 Web 版	9
JDream II	10
CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)	制限なし
今日の診療 Web 版	3
メディカルオンライン	制限なし
ヨミダス文書館	制限なし
ProQuest Nursing & Allied Health Source	制限なし
The Cochrane Library	1

表2 年間受入資料数 (2010 年度)

		和	洋	合計
図書 (製本雑誌を含む) (冊)	購入	900	87	987
	寄贈	630	52	682
	計	1,530	139	1,669
視聴覚資料 (点)	購入	10	3	13
	寄贈	10	0	10
	計	20	3	23
雑誌 (タイトル)	購入	88	27	115
	寄贈	65	6	71
	計	153	33	186

を使用している。特に所蔵数の多い看護学 (492.9) には「Nursing」の「N」を採用することにより、看護学分野の図書が識別できるようになっている。

開学から10年を経た時点で、蔵書数は、図書館の所蔵可能冊数の約6割を充たしたところである。洋書の比率を開学当初の目標値まで上げることや、学生の教養の修得に資するための望ましい蔵書構成を念頭において、計画的に資料を収集している。

### (3) 職員の構成と図書館の運営体制

図書館職員は、図書館長 (教授兼任)、図

書課長 (財務課長兼任)、専任職員2名、嘱託職員1名、臨時職員1名で構成されている。このほか、夜間の受付要員として、宗像市のシルバー人材センターの派遣職員が交替制で勤務している。

予算や資料の選定、利用・管理に関する事項など、図書館の運営に係る重要な事項については、図書館長を委員長として学長が任命する委員 (2011年度は4名) で構成された図書館運営委員会が審議している。同委員会の2010年度の開催は全8回であった。

## 2. 利用状況

### (1) 入館者数と貸出冊数

開館時間は、平日が午前9時から午後8時30分まで、土曜日が午前10時から午後7時までである。実習で平日の来館が困難な学生も、土曜日に開館することによって図書館の利用が可能となっている。

入館者数、貸出冊数ともに、完成年度の2004年度以降も増加傾向にある(表3、4)。

医療関係者の利用は、宗像市域のみならず、福岡市や北九州市など近隣の地域からも増加する傾向にあり、その利用要求も高度化している。

### (2) 図書館間相互協力

学外文献複写の依頼及び受付は、国立情報学研究所のNACSIS-ILLシステムを利用し

て行っている。依頼に関しては、その他にもインターネットを通じて国立国会図書館のNDL-OPACや科学技術振興機構(JST)の複写サービスも併用している。利用件数は、依頼件数が受付件数を上回っている(表5)。

国内に所蔵していない資料については、NACSISのグローバルILLや丸善DDSを利用して、可能な限り利用者のニーズに応えるよう努めている。

蔵書は看護学分野を中心とした構成になっているが、利用者が求める資料はその関連分野も含めて多種多様であり、それらの要求すべてに自館のみで応じることは困難である。このため、他館と協力し、互いに資料を補い合うことによって、利用者の要求に応じるよう努めている。利用者の利便性を向上すべく、

表3 開館日数・入館者数

(人数)

	開館日数	学内者	学外者	合計	1日平均
2006年度	275日	53,742	1,265	56,272	205
2007年度	279日	73,618	524	74,666	268
2008年度	276日	76,287	716	77,003	279
2009年度	274日	76,524	591	77,115	281
2010年度	276日	82,744	668	83,412	302

表4 貸出冊数

(冊数)

	学部生*	大学院生	教職員	学外者	合計
2006年度	8,605	-	1,485	163	10,253
2007年度	9,715	393	1,730	49	11,887
2008年度	10,504	737	1,550	41	12,832
2009年度	11,017	544	1,382	60	13,003
2010年度	11,382	590	1,899	14	13,885

※聴講生、科目等履修生、研修生を含む

表5 図書館間相互利用件数・文献複写 (2010年度)

(件数)

	依頼	受付
大学図書館	990	458
その他の機関	57	114
計	1,047	572

2005年には、宗像市民図書館と宗像市内の3大学とが協定を結び、市の図書館連絡車運行による図書館資料相互貸借を行っている。

#### IV. 特殊コレクションー災害看護・人道科学図書コーナー

図書館には、赤十字関係図書や貴重図書等の特殊コレクションを有しているが、中でも、特色のあるコレクションとして、災害や看護、人道科学 (humanitarian sciences) 関連の図書を集めた「災害看護・人道科学図書コーナー」を設けている (図3)。現在の所蔵資料数は1,142冊である(2011年8月1日時点)。

人道科学という分野は、現学長 (喜多悦子) が、紛争地での長年の経験から提唱した概念であり<sup>3)</sup>、このコレクションも、災害医療や看護関連図書のみならず、ひろく人道に関し



図3 災害看護・人道科学図書コーナー

た図書を収集するものとした (表6)。

本学は1986年に開始された世界的な人道援助研修コース「H.E.L.P.」を、2003年にわが国で初めて開催したが<sup>4)</sup>、2011年で5回を数えるこの「H.E.L.P. in JAPAN」研修の関連資料も、同コレクションを形成する重要な資料として収集している。

また、本学は九州初の救急看護認定看護師教育課程を2010年に開設しており、当該コレクションは、この教育課程を履修する看護師にとっても、救急看護の知識や技術の深化を図る資料として活用されている。

#### V. その他の利用サービス

##### 1. 学生の読書推進

###### (1) 本を読んで話す会

学生の語彙力や他者とのコミュニケーション能力の向上を目的として、2009年から「本を読んで話す会」と称する読書会を年に4回程度開催している<sup>5)</sup>。内容は、皆で同じ本を読んで語り合うという従来の読書会のスタイルであるが、より気楽な雰囲気、本や関連する事柄を自由に話せるよう、ランチョンミーティング形式の会としている。対象図書を読んでも、他の参加者の話を聞くだけの参加も可としており、また、ときには、あえて対象図書を決めず、参加者各人が読んで本について紹介しあう場合もある。

###### (2) 「おすすめ図書」と「学長が新生にすすめる100冊の本」

図書館のウェブページ内に、「おすすめ図書ー知識の扉」と題したコーナーを設け、毎月、学生や教員からの推薦図書の紹介を行っている。推薦図書は新刊・既刊、分野を問わず、先述の「本を読んで話す会」参加の学生による紹介文も掲載している。

表6 災害看護・人道科学図書コーナー 収集及び配架基準

分類	主 題	蔵書レベル	備 考
0類	000 総記		「災害」「戦争」「人道」「公害」などを主題とするもの
	080 叢書 全集		主題によっては、本コーナーに優先的に配架
1類	100 哲学		「災害」「戦争」「人道」などに関連するもの
	140 心理学		「災害」「戦争」などに関連するもの
	150 倫理学		「災害」「戦争」「人道」などに関連するもの
2類	200 歴史		「災害」「戦争」「人道」「公害」などに関連するもの
3類	300 社会科学		「災害」「戦争」「人道」「公害」などに関連するもの
	316.8 民族・人種問題		「国際紛争」「戦争」「人道」などに関連するもの
	316.88 ユダヤ人		「国際紛争」「戦争」「人道」などに関連するもの
	319 外交 国際問題		「国際紛争」「戦争」「人道」などに関連するもの
	319.8 戦争と平和		「国際紛争」「戦争」「人道」などに関連するもの
	320 法律		「災害」「戦争」「人道」「公害」などに関連するもの
	329 国際法		「災害」「戦争」「人道」「公害」などに関連するもの
	333.8 経済協力 経済援助		「災害」「戦争」「人道」「開発」などに関連するもの
	361 社会学		「災害」「戦争」「人道」「開発」などに関連するもの
	365 生活・消費者問題		「災害」「戦争」「人道」「開発」などに関連するもの
	369.15 赤十字事業		「災害」「戦争」「人道」を主題とするもの。配架は赤十字コーナーを優先
	369.3 災害 災害救助	網羅的収集	
	369.31 震災 火山災害	網羅的収集	
	369.32 火災 ガス爆発による火災	網羅的収集	
	369.33 風水害	網羅的収集	
	369.34 水難救助	網羅的収集	
	369.35 工場災害 周辺被害者	網羅的収集	
	369.36 爆発事故等による被害者	網羅的収集	
	369.37 戦災者・被災者・引揚者保護	網羅的収集	
	369.38 難民救済	網羅的収集	
369.39 軍事保護	網羅的収集		
391.1 戦争 哲学、心理学	網羅的収集		
4類	400 自然科学		
	450.98 自然災害誌	網羅的収集	
	451 気象学		高度に専門的な資料は除く
	451.98 気象災害誌	網羅的収集	
	453 地震学		高度に専門的な資料は除く
	492.29 救急処置	網羅的収集	
	N07 研究法 指導法 看護教育		「災害看護教育方法」などに関連するもの
	N16 救命救急 集中看護	網羅的収集	
	493.152 金属中毒		「公害」に関連するもの
	493.153 非金属中毒		「公害」に関連するもの
	493.195 放射能障害	網羅的収集	
	493.7 精神医学		「災害」「戦争」などに関連するもの
	493.8 感染症		「災害」「戦争」などに関連するもの
	494.3 損傷〔外傷〕		「救急救命」を主題とするもの
	498 公衆衛生		「災害」「戦争」などに関連するもの
	498.1 衛生行政 厚生行政		「災害」「戦争」「公害」などに関連するもの
	498.2 民族衛生 優生学		「災害」「戦争」「人道」などに関連するもの
498.3 個人衛生 健康法		「災害」「戦争」「公害」などに関連するもの	
498.6 疫学 防疫		「人道」「人権」などに関連するもの	
498.89 災害医学	網羅的収集		
5類	500 技術		「災害」「戦争」「公害」「ヒューマンエラー」などに関連するもの
	509.8 工業災害 労働災害	網羅的収集	
	518 衛生工学 都市工学		「災害」「戦争」「公害」などに関連するもの
	519 公害 環境工学		高度に専門的な資料は除く
	539.68 放射線障害と防禦	網羅的収集	
	539.99 原子力災害	網羅的収集	
	543.5 原子力発電問題		高度に専門的な資料は除く
	557.84 海難救援	網羅的収集	
	559 兵器 軍事工学		高度に専門的な資料は除く
	561.95 鉱山事故	網羅的収集	
567.9 炭鉱災害・保安・衛生	網羅的収集		
6類	600 産業		「災害」「戦争」「人道」「公害」などに関連するもの
	611.3 食糧問題 食糧経済		「災害」「戦争」「人道」などに関連するもの
	611.39 飢餓		「災害」「戦争」「人道」などに関連するもの
	687.7 運行 航空事故	網羅的収集	
7類	700 芸術		「災害」「戦争」「人道」「公害」などに関連するもの
8類	800 言語		「災害」「戦争」「人道」「公害」などに関連するもの
9類	900 文学		「災害」「戦争」「人道」「公害」などに関連するもの

(2007年度 図書館運営委員会にて決定)

また、学長が新入生に向けて選ぶ100冊の図書のリストを、「学長が新入生にすすめる100冊の本」として2006年から入学式で配布している。「女性作家」や「闘病と看護、生命と癒し」など、年ごとにテーマを決め、学長のコメントとともに紹介したもので、毎年4月には、これらの図書を展示した特集コーナーを図書館内に設けている。

## 2. 利用支援

### (1) 学年ごとの文献検索ガイダンスの実施

学生の情報リテラシー能力の向上を図るため、学年ごとの段階的かつ計画的な文献検索ガイダンスを実施している<sup>5)</sup>。これは、ひとつのデータベースについて、学年ごとに複数回ガイダンスの機会を設けることにより、細部の機能にわたって繰り返しの習得ができるように配慮したものである。

また、特に卒業研究を行う学部4年生に対しては、「オーダーメイドガイダンス」と称して、その学生の研究テーマに沿ったキーワードを用いて、データベースの検索方法を教える個別ガイダンスを予約制で行っている。

### (2) 図書館ブログ

2011年4月に、学外の無料ブログシステムを活用した「図書館ブログ」を新たに開設した。先述の「本を読んで話す会」や、図書リストの配布など、学生の知的興味を喚起して、読書の習慣を涵養するための方策を試みているが、そのような催しやコンテンツの存在に気づかない学生も少なからずいる。こうした学生に対して、ブログという親しみやすいツールを用いることによって、図書館をより身近に感じてもらう契機となることを目的とした。月4回程度更新し、掲載内容は、新

着図書や寄贈図書の案内、各種行事の開催案内と実施報告を主としている。開設から3ヵ月が経過したが、利用者からは、「図書館のウェブページは、もっぱらデータベース利用の入口として使用していたが、それ以外にも多様なサービスがあることがブログを通して分かった」という意見が寄せられている。今後は、更新回数を増やし、利用者からのコメントを活用したコミュニケーションを図る予定である。また、ブログに限らず、広報活動に有効なツールがあれば、それらを適宜取り入れて図書館を継続的にアピールしていく。

## VI. おわりに

九州・沖縄ブロックの赤十字看護大学として、赤十字の他の施設とどのように連携して図書館サービスを提供し、展開していくかは今後の課題である。同窓生・卒業生に対しても、データベースの利用提供などを実施していく必要がある。

また一方で、看護学の専門知識にとどまらず、リベラルアーツを基礎とした豊かな教養を身につけた看護職養成を支える施設として、蔵書・サービスともに一層の充実を図ることが求められる。グローバル化と情報化が進む社会情勢に対応し、進取の精神を持って情報サービスを展開していきたい。

## 参考文献

- 1) 宗像市史編纂委員会, 宗像市史: 通史編第三卷(近現代), 宗像: 宗像市; 1999, p.365-367.
- 2) 日本赤十字九州国際看護大学: 事業報告書 2009年版, 宗像: 2010, p.1.
- 3) 喜多悦子: 「人道科学」への道, ワイズメンズクラブ国際協会西日本区, エイズ

- で学ぶ：心豊かに生きるために，神戸：2010，p.83-102.
- 4) H.E.L.P. in JAPAN 2003 実行委員会，H.E.L.P. in JAPAN 事業報告書，宗像：日本赤十字九州国際看護大学；2003，61p.
- 5) 多川綾子：日本赤十字九州国際看護大学図書館における読書推進の取組み，看護と情報 2011；18：68-70.
- 6) 伊東泰子：日本赤十字九州国際看護大学図書館における利用教育について，看護と情報 2009；16：51-54.